

## 地域生活支援拠点等に係る調査結果

## 1 実績（件数等）※R4年1月現在

項目	法人 社会福祉法人 上越市社会福祉協議会	社会福祉法人 上越福祉会	特定非営利活動法人 大杉の里	社会福祉法人 みんなでききる
事前登録者数	6人 ※ケア会議で想定される緊急時や緊急時の過ごし方について確認し、拠点利用の必要性を共有。	48人	事前登録制度なし	124人 ※ぷあん短期入所登録者 118人 ※地域定着支援支給決定者 6人
登録以外の対応件数	0件 ※支援者や家族は緊急時を想定し、拠点の利用を勧める（望む）が本人が拒否。 ※特に夜間、転送電話に新規の方から相談が入る。偽名、匿名の方もいるので対応に迷う。	2件 ※法人外の相談事業所からの相談	-	0件 ※R3年度は5件（2件は妙高市、3件は相談支援専門員から）照会があったものの受け入れは行っていない。
緊急の相談対応、サービス調整件数（内容）	1件（昨年2件） （親族の不幸、体調不良等）	2（昨年9件） （親族の不幸、異常気象等）	2件（昨年5件） （住居、お金がない）	2件（昨年2件） （親族・支援者の入院）
拠点間連携件数	2件	1件	0件	1件
体験の機会・場の提供数	0件	0件	0件	2件

## 2 地域生活支援拠点等における連携及び体験の機会・場の事例 … 別紙のとおり

## 3 課題等

- ・拠点としての動きが法人内からも外部（市民）からも分かりにくい。名称も分かりにくい。
- ・実績の報告も相談を通して依頼した件数は把握がしやすいが、事業所が地域のニーズに応じた件数はどれが拠点としての動きになるのかが分からない。
- ・強度行動障害（特に自傷他害）のあるケース等、加配を付けて受け入れる場合の柔軟な対応。
- ・法人外の生活介護事業所職員がタイムケアサービス（有償）として自宅へ駆けつけてくれた。ショートステイのみでなく、このようなサービスが充実してくるとよい。
- ・法人内での拠点の体制づくり、法人間の連携の仕組みづくり。（共通の書式やPDCAサイクルの確立等）
- ・担当相談員や普段関りがある職員の協力が不在中の緊急受入が困難。共通の短期入所フェースシートがあるとよい。
- ・緊急受入の判断の難しさ。障害特性や支援度に応じて職員の加配ができるか。本当に緊急で受け入れるべき案件かどうか。
- ・虐待案件における市との支援情報の連携が必要。ある程度の家族背景等の情報がないと家族とのトラブルになることが危惧される。
- ・緊急時の確認事項を減らすための事前準備が必要。（サービス利用に関する市との申し合わせ、事前登録など）